国立公文書館
National Archives of Japan

山口大学
図書館蔵書

明治十二年購求

国立公文書館
National Archives of Japan

内閣文庫

塩尻巻之三　元禄

國志作範

玄津神祇

仏法抄

西岡大明神

若光寺縁起　卧像

七面明神

出雲神社の三柱

議古人之失

亀山誌　滋仲曰

西湖志纂要

濕地曰久多

光明石

匠庁　匠士

地田八剣宮

浪迎竹

清須城大迫物

花譜

淡志見書

元吳文西之易纂言

清本板

内閣文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

竹生嶋　鯛　鱧魚

伝夫乃庵記　為肅子

瑞龍山寺之息　宇佐八幡宮

[illegible]　工工皿

[illegible]　八花毬　きりゝ二種

[illegible]　蛍珠院碑銘

[illegible]　五之昧　[illegible]

沈國[illegible]　[illegible]

貞享暦　漢音呉音唐音

[illegible]山野柚偈　明石人丸祠堂碑銘

○欲筆國志作範乎諸賢同筆紀四條

勉齋黄氏曰有謂言貴舍蓄不可太露文貴簡古不可太繁者夫工於為文者固能使之隱而顯簡而明是非愚陋所能及也顧恐名曰舍蓄而未免於晦昧名曰簡古而未免於艱澁反不若詳書其事之為明白也　朱子行狀

謹按製文記事者於黄氏之書著工夫則其文篤実而可詳備矣

趙謙学範曰陳氏曰作文之法明體立意用事造語下字云〻亦曰傳宜質実而隨所傳之人變化記宜簡実方正雜議宜方折明切云〻

謹按造文者亦不可不知也

仲詢愼府燕閒錄曰歐陽文忠嘗与同院出遊有奔馬斃犬於前文忠顧曰君試言其事同院曰有犬卧於通衢逸馬歸而殺之文忠曰使予脩史万卷未已内翰以為何如文忠曰逸馬殺犬於道云云

謹按是亦記事者手鑑也

都穆聽雨紀談曰文章貴簡不貴繁而亦豈易得哉云云

謹按此言不可看過也拙文簡也者使人生謬亦大繁固用卷而令呵欠明人脩永樂大典而

修不行者卷数繁多故也諸賢所宜致思者乎

元禄十二年九月朔

○湿地呼之曰久手用湫字按字書云湫北人呼水池為湫者近之欤

○天津神籬　天津磐境

卜部家神籬御巫印之傳者其偽誣羅山子於神道俗解折衷集辨之而破後人之疑夫以堅木為主使神灵憑依而以祭焉謂之比毛呂木即以神籬字者有故哉按比毛呂木者乎天日可栄覆於上之木也

伊波佐加者如磐石之無動迁之地也若彼曰

高天原千木高知曰中下津磐根宮柱太知立上者
亦祝上下詞而神籬磐境同意也
但比毛呂者日室之謂日者御之意神之御
室也可秘

○光明后置浴室臣庶入於其内自亦入此而恣淫
察人誉譏已而託以仏瑞然万世不知其臭乎事
文類聚有晋李季之妻淫外人便其人裸躰解髮
為鬼神欺李季令浴之事噫聖武之昏愚見欺奸
后建寺終身不察之曰之聖曰之武其号豈不虚
文嗚呼

○観世音菩薩秘密藏神咒經 唐実叉難訳

陀羅尼和阿伽陀藥法令人愛樂品之曰
牛黄 白檀 欝金香 龍脳香 麝香
豆蔻子 丁子 迦倶羅 蓮華 青蓮華
金薄
各等分白蜜与業亦等分 檮和誦前咒一千
八遍用香
或熏身熏衣或塗眼胞上或點額云〻
如意輪合茉呂曰
龍脳香 麝香 欝金香
細檮和牛黄云〻以浄水和之作丸如梧桐子
大云〻隔乾云〻即若一丸内口中若王輔大

衆云〻即生恭敬財宝不惜但所須者一切人
皆与之云〻
私曰此經記某方又有摩訶迦羅神之名夫
以方某秘咒求人之財宝世人聞之則豈不
生欲念如意摩尼陀羅尼經実思惟所訳如
意輪陀羅尼經菩提流志所訳也亦説許多
某方

○咒三首經　唐地婆訶羅訳

此中有摩利支天咒嗜上声摩利支曳薩婆薩
多婆額阿利婆利婆上声訶云〻
私曰今武林以此天為軍神而有不弁竺土
説者

○不空羂索神変真言經二菩提流志訳三十卷　秘密心真言
品三曰牛黄真言云〻如是真言三昧邪而加
持于牛黄云〻
同十奮奴王品十四及世出解脱壇像品二十六
有曼拏羅神之名亦二十九灌頂曼拏羅品六十
曼拏羅天神云〻又功德成就品七十三一切
曼拏羅神種〻真言明神云〻
私曰是蓋摩多羅神也
同經十九護摩成就品三十四曰有護摩悉地三
昧耶云〻

紫檀木若棟木長一㮚手斫截然火加持稻穀
烏麻白芥子塗酥酪云〻
同九七護摩秘密成就品六十一社仲木構木斫
截然火白芥子大麦牛酥加持云〻
○仏説七倶胝仏母准提大明陀羅尼經金剛智訳遣一
童子云〻或於淨潔鏡面以將花念誦一百八遍
散置鏡上使者即身現鏡中云〻鏡面上即有善
悪相自現鏡中云〻現天神及僧菩薩等形像云
〻
私曰曽聞天主之徒有鏡中現異形者即竺土
之風欲亦吾邦有鏡影皆此類欲黠胡以幻術
惑人如此
○仏説陀羅尼集經阿地瞿多訳十三卷
此經中有般若波羅密多大心經説十六神王
之事是般若十六善神也
同經十有大青面金剛兒法及屆五藥又像法俗
為庚申之本尊者而無一言及庚申者也
同十一有仏説摩利支天經一卷
同十二有龍王法身印兒且五方五龍之事亦有
大龍天神王之名
同十三仏説莊厳道場及供養具支料度法有以
金銅鈴帯四十八道大鏡九八面小鏡四十面

置道場之説上

右巳卯十月十三日隨看過而書之

○區廬　日本之番所也

漢書註衛士之屋謂之區庐

區士

宿衛宮外士称為區士

○神名秘書春日第三神殿者正一位勲三等座河内國河内郡平岡大明神天児根命是也云〻

又曰　垂仁天皇御宇也　太神宮遷幸　十年辛丑迁幸于美濃國伊久良川四年奉齋次迁于尾張國中島宮座于時造進尾張神戸

又曰天平賀

拾日本紀并神宮旧紀一名平篤（ヒラカ）亦曰巖平篤（イハヒラカ）

亦天手挟（タテ）云〻

又曰日本武尊既平東虜還至尾張國云〻其草薙劔今在尾張國熱田社也沙門道行盗取之趣異國逢風雨不達先路有灵威祓送熱田社自以降造加於劔七柄為八劔宮也

○信貴善光寺縁金泥繪卧像ありゆゑ薬師如来と云

涅槃乃相と思ふ故事白眉乃之仏乃欠

云卧仏世説庾公嘗入仏國見卧仏

涅槃経云如来背痛於双樹間化首西卧（北首カ本ニ）故後

之圖繪者為ニ此象一

○曰此午疲ニ於津梁一于時以為ニ名言一云 所道ハ若光寺
にありこれ乃像も此妖ひなりん

○今まのを呆邦乃人銀色布といふ 元贇口語

○日蓮黨所崇七面明神者甲州身延山久遠寺鎮
守也七面者身延山一峯名也七面縁起為ニ嚴嶋
神一又為ニ無熱池神一然其実弁才天女也不ㇾ見ニ日蓮
之録内外書及註画讃一末流以下在ニ身延山一神祠上故
託ニ事於日蓮一為ニ附會妖妄之説一惑ㇾ人

○文明十七年九月八日於ニ尾州清須城一犬返物
城主ハ織田伊勢守平敏信朝臣なり 梅花無尽蔵

乃ニ見へたる

○書をこのむ人ミツ乃病にかゝる時ハ必すつねにこれをもてあそひ
はうつしよ架上乃銀鉤を飾まて牙籤錦軸装潢乃う
るはしきを衒ひかさりやし書乃名をもてあそふのみなり廣く
収めて旧記秘策を以し心力を尽くしてたゞ蓄へ
なんのためそといふにもしらぬこれ必ず講習討論を事ともせす
かしく多きを誇て塵にうつもれて空しく閣にある
是を書肆といふ可也亦ハ博く学ひ多く識て記こ
として是を完めてしかハ謾游にして家を忘倫身乃
修まるへきもてことのミ務まそおもふ事もあり是を語誦
乃俗学にあらさして何そや 此ミツ乃病ハ五雜爼に見へて

[illegible]

詩を作り文を書くものなれども自反慎獨の思惟
かつてなき人あり或い禪を好む乃言を好む未学の
義理を侍るものや世人これを弁じて書を読み先
方寸を正しくすべき学者なり儒者なりと思ひ
るものなり把

○頃日貝原氏花譜二巻を作りて板に彫り
つゝ倫くゝ作るべきなり

○薛文清公曰在古人之後議古人之失則易處古
人之位為古人之事則難
嗚呼議論他人長短不如省警自己可否乎每
以薛子之言三復焉

○閑情小品曰讀未見書如得良友見已讀書如逢
故人

○困学紀聞曰亀山誌滋牧中曰嘗以畫験之事乎
以観其行之篤否也夜考之夢寐以卜其志之
定乎未也
夫学者脩身之事耳李誠之所謂篤信好学守
死善道吾輩八字箴者実不可緩也

○元吳文正之易纂言清成徳校訂之其巻首載連
山飯藏連山以六爻艮飯藏以六爻坤有所傳乎

○西湖志纂要西湖乃圖也乃[illegible]湖乃[illegible]山

[illegible]寺院ちり我邦佛寺乃[illegible]多[illegible]
[illegible]

○清本ハ汲古閣板[illegible]通考堂[illegible]
文字[illegible]と今書[illegible]

○竹生島　都久夫須麻之轉語而假借字也神名式
近江國淺井郡都久夫須麻神社者今竹生島也
祭市杵島姫浮屠変弁財天女

○鯛　崔禹錫食經曰鯛都條切　良似鄉而紅鰭者也
順和名　國書所謂棘鬣魚是也

○鯉魚　唐韵音堅漢語抄云加豆乎式文用堅魚
二字

○信夫庄司藤原元治
是佐藤庄司而嗣信忠信之父也

○若狭少將豊臣俊勝始任宮内少輔後遁世号長
嘯子

○瑞龍公御亡息畧記昊會日鑑泰山　御幼息御
法名所傳聞如此

圓照院	五郎八 延宝六九朔	傳通院
光周院	童子 延宝六四九六	相應寺
本壽院	童子 貞享元四四	同
智照院	童子 元禄四二五	同
了智院	いら姫 元禄七四九五	同

靖康院	松之助 天和三四七	建中寺	
智峯院	きく姫 貞享二八九三	同	
臨照院	くく姫 貞享三四四	同	
獨立院	喜左郎 貞享四九六	同	
到峯院	ひく姫 貞享五六十九	同	
寶池院	元禄二三九三	同	
徹空院	元禄三十九六	同	
幽厳院	亀太郎 元禄五巳二	同	
秋光院	元禄六九九六	同	
凉雲院	あや姫 元禄七四九	同	
離相院	石松 元禄七七九	同	
慈月院	よさ姫 元禄八七九一	同	
淨躰院	元禄十四十七	同	
清龍院	元禄十一九九一	同	
船運院	増之亟 元禄十二十八	同	
艶陽院	副姫 元禄十三三十七	同	
迢珠院	常三郎 元禄四六七	高岳院	
秋林院	勢こ丞 元禄九七十七	同	
桂鏡院	城二郎 元禄十七七六	同	
花庭槿栄	清姫 童女 貞享元六九八	大光院	
真知院		同	
真乗院	童女 天和三六九五	本立寺	

公方御養女　知法院　喜智姫君　天福十一七六

法雲院　岩之亟　宝永二十三五

増上寺

○宇佐八幡宮三所

應神天皇　神功皇后　玉依姫

石清水八幡三所

應神天皇　姫大神　神功皇后

右見八幡愚童訓

○一二三四五六七八九十十一十二

工工工工工工工工工工工工

見南蠻小自鳴鐘

○博古圖漢鑑有六花鑑唐鑑有八花鑑

按吾邪所謂八花形鑑者蓋唐八花鑑也真野時縄云八咫者八頭也頭邸也八邸之謂而心ノ字ヲ略スレハヤタ也云々

○綿花をきりさとりたる木とをとりこと二種あり木綿ハ木にして桐のごとく葉に胡桃のごとく本綿ハ草にして焼畑にうゑ本綿ハ草にして焼畑にうゑ却て劣れり竹をもて弓とし弦とし蜀黍を尺とし通志梁紀史炬り粉文乃氏大学衍義補耕織あり木綿の事を我國にも昔渡りし絶て永禄年中乃比呉郡より又来りしとて彰聚國史百九十九巻物産乃

於上綿種之嶺崙乃今[illegible]

○尾張國愛智郡宝亀山相應寺者

從二位亜相源公奉為顯妙大夫人所被營建也

新鑄華鐘以架之樓其慎終永念之孝至矣於是

奉命謹為之銘

銘曰

尾陽城東　相應緯宮

三宝垂教　一逝達聽　（逝ノ訓カナキ鐘ヲウツ木ナリ）

禹聲不盛　鬼氏有功　（考工記曰鬼氏為鐘鐘縣謂之旋云々）

長樂荒外　天竺月中

来城告曉　蓮社傳風

千歳遺響　惟孝無窮

寛永二十年九月十六日

大壇那権大納言源朝臣義直卿

住持　眼誉上人

治工　藤原政長

法印道春敬書

○螢珠院

從三位参議兼右近衛権中将尾陽之世子細誠

卿之夫人

八條智仁親王第三子廣幡大納言忠幸卿

二品亜相尾陽矣源敬公之女普光院元禄五年
壬申冬十月十九日卒葬于武州天徳寺光明山
蛍珠院之出自恐歳月久而湮滅別鐫其家系于
石乃建墳之側維永不朽矣
元禄五稔壬申冬十月某日

○五三昧

阿弥陀寺　舟岡山　島邊山　西院
竹田イ中山

○権現様三人之御女中衆

おかゝ様　相應院様也
おまん様　養珠院様也

おかち様　栄松院様也
家内ゝ御為ゝ前ゝ為下総ゝ為此三人ゝ刑部殿子息
ゝて雲光院殿為ゝ孫也
雲光院殿事神尾刑部ゝ御為ゝて若ゝ法ゝ的来
ゝ中ゝ　権現様乃法号ゝて為ゝ可為ゝ中乃尼様
江戸ゝ為入院法迄ゝ上ゝ
後水尾院様ゝ位乃時雲光院ゝ位階ゝ下ゝ二位
ゝ位ゝ勅定乃ゝ

○津乃國ゝ拙列ゝて乃為ゝ古御乃記
○拙州堺乃松ゝ乃松のゝ

○堺乃松より東道より少し入るなる敷盛大塚を高サ丈三尺
○石塔より東三乃谷二乃谷より巌石井より乃西ハ二の谷
乃せり出し乃ごとく中傳
○一乃谷二乃谷乃ゟ西象詰場あり此所別須广
乃上野より西徒歩里居同所ゟ陣屋より三間四方
祖土堤乃跡今ゟ有新ゟ載集旅乃記浄所法泉
浪加乃ゟ西ゟ上野乃家ゟ
ちゑ乃ゟ西ゟ横ゟ乃ゟ
○三乃谷ゟ二町程横九間高九間谷口より波打際まで
五十丁程三乃谷より二乃谷の方二町程
○二乃谷ゟ三町程横八間高九間谷口より波打際と
四十丁二乃谷より一の谷乃方三町四十丁有
○一乃谷ゟ四丁程横二十間高九間ゟ十二丁位ゟ下り十七
丁あり
○道より小一乃谷乃上詰場峯より同所ゟ諸無松
あり二乃谷乃松のごとし
○鴨越乃ゟ下詰場峯乃ごとし小ゟ南へ出ゟ
○元暦乃源平乃戦ゟ東北大ゟ生田川沿西乃橋ゟハ
播磨坂塩屋村限
○熊谷平山ゟ武乃足ゟ塩屋村乃ごとし
○須广親ゟ福祥ゟ中間前ゟ西ゟ北横あり源
氏ゟ義朝ゟ横ゟ乃ゟ初ゟ雲ゟ乃ゟ

らてかちること此寺より數度新あり其後乃留こ
俗弘法大師の筆乃法華経一部ありしかと
紛あり
○須戸乃驛所乃西の濱須戸と西すなわち川
なり此川乃西の方に有金蒔絵 源兼昌
法師歌かすもちとりのちくさなる
紫衣ねちめぬすもれ驛も
因幡行平中納言乃配所河内とも在所乃考ふ
古と集雜下
わたつみとなる人なれしるの浦を
しらなみたちくるしくる
○因幡より南濱多てより里程あり此松を槇村西の
田畑とも中所松風村西乃田畑すまより一里ほと
奥田井畑村と中所二人の主所まて彼地まてあるの
ゆ所設ふ設るこ所とを
○因幡より月尺乃松とより少西須戸と東須戸と乃名
乃出れ中所とより所乃月尺の松と中こと也松
より今のい新松乃ゆ
○因幡光源氏乃配所い道ゆ少あるゆ
○盗人松とより南濱多所とつ二おあり
ゆい松ゆ
○豊度宗乃所とより南濱多所と松と中所の

○淀堤橋因所まあと金葉集長実卿母
[illegible]
つ[illegible]
○右因所ニ紫乃松有り光源氏[illegible]
いま[illegible]乃松乃[illegible]
[illegible]
○西代村に昔さいさ有と申所
○[illegible]乃池西代村乃東池乃堤[illegible]て蓮乃池の
東かた[illegible]川[illegible]
○平重衡此かた[illegible]川の辺[illegible]て生捕
○城中前田盛俊塚かた[illegible]川乃橋より東[illegible]

池乃中[illegible]
○平知章乃塚因所道より南池乃[illegible]
○[illegible]池 因所[illegible] 因浦道より南東池尻村
[illegible]
[illegible]
○本間孫四郎[illegible]和田小松原と申[illegible]より南
[illegible]
○安徳天皇内裏屋敷因所[illegible]
○和田津守兵庫乃[illegible]三丁程南海中に底已
[illegible]堤[illegible]

中日　和田のうきをこうするの
かうらのやまと乃うつかせ

○和田笠松こゝにむかし乃松乃ありしかのうつり
下枝をてかまてる者乃ゑ松なり　季經
ゆまをたれしかるゝと乃かゝるに

○清盛石塔因所よりあり高サ弘安九年と切付高サ
四尺　きたゝ方寸土臺ゑたゝ四方あり

○兵庫築港乃寺絵図ゑ清盛乃ゑ
松王乃絵図ゑ

○湊山兵庫乃町ゑ三千疋之ゑ西ゑあり新勅
撰集雜下　後徳大寺左大臣

○湊川因所より三千疋ゑ此川ゑ掃も
あり　和歌集秋下　刑部卿藤原

ちるとゝ川ゝまれ乃庵ゑ宮ゑ
生田乃奥ゑ　ゆかしかりけり

○兵庫古絵ゑ池田勝入立乃ゑ城代息信乃印ゑ
窓ゑ　ゑ所拾ゑ池田ゑ有岡ゑ根絵ゑて信乃ゑ
乃所在城乃ゑ

○菊野村告野村ゑ村ゑ昔ゑ庄乃村ゑ
中古ゑ菊野村ゑ　これゑ湊川ゑ十七八丁西ゑ

世多乃ゝ大山ちてのおちめてる
氷室をいまも伝せさしりりを
花熊乃ゝてをねため多ゝ家ちる
山ゆゝの庫も かゝやちてん

○梅ヶ枝乃西港川乃小道より一町計西乃ゝ私
梅を植ゝ塚あり

○上北村迄北村兵庫より十町計小道ゝ乃生而
上北村より小乃山よせゝ坂和村花熊村城ヶ谷村
小野村中ゝ家村此ゝ所ゝ附塚乃跡也

○花熊乃城ゝ芝木谷津ゝ取立ゝ居城代野ゝ分一
兵清ゝ仁ゝ居ゝ也ゝ大坂ゝ門徒ゝ持ゝ付

西國ゝ出ゝ方より兵糧米ゝ中を大坂川ゝ入て舟一
兵清押ゝ戦ひ中ゝ討死仕ゝ家ゝ西城代ゝ名道
山ゝ所雑賀孫市討漏ゝ

○雑賀孫市彼城ゝ持ゝ居ゝ池田信入貴為一城ゝ
別ゝ中ゝ芝熊粉庭乃合戦ゝ信入息吉新生ゝ
十六ゝ為ゝて花熊城責乃下知ゝ出ゝ名粉庭
有ゝ為ゝ中ゝ上北村乃者ゝ西福住方ゝ中ゝ
孫市歩行乃者ゝて有ゝ此者ゝ対吉新ゝ
流り合ゝ所ゝ家老和田加兵衛十人ゝ為ゝて使来ゝ
ゝ乃ゝ合ゝ為ゝ戦ひ中ゝ世話頂ゝ引ゝ
古新ゝ信ゝ池田三左衛門ゝ花熊乃城

[illegible]竜勧能[illegible]
西い播ノ堺限東い摂州津田川ニ[illegible]
○右乃佐城坂本村より山上乃ゆゑ内安寺法華寺
ら[illegible]より中ノ村小乃乃ゆゑい猪名乃[illegible]
野村乃おゝい息絶乃印左傳乃ゆゑ右乃合戦
あゝ[illegible]乃七ヶ[illegible]
○たゝ乃城赤松判官信濃ノ印兵庫持ゆゑ
兵庫より中ノ村乃上北村ゆゑ
○堀原ゆゑ二度乃ゆゑ上北村より山城ヶ谷村ゆゑ
[illegible]乃石[illegible]
○生田乃社[illegible]より[illegible]一村乃[illegible]新古ノ集

秋上

家陰

業能卿太介相伴ノ時生田農茂理耳如紀ゆゑ来仁計里

○能乃梅生田明神社乃花右乃[illegible]
○小野坂ノ[illegible]生田川乃[illegible]山坂あり并小野濤
生田川乃[illegible]此二ヶ所乃花[illegible]
集欲ゆゑ[illegible]

○求塚生田川より十丁町程東ゆゑより南海乃[illegible]に
塚あゝ[illegible]乃[illegible]
[illegible]あゝ[illegible]載集ノ二

後京極

うらびゝぬ乃[illegible]

生田の川を渡りて
此二人とまうすを乃塚生田より一里程東を貝村とや
ゝまあるを
○布引の滝生田川のみなもとなる有 新後拾遺集雜下
藤原基隆
世の中はいとゝ憂川のみなもとを
たづねてのぼる布引の滝
○摩耶山こゝに摩耶夫人乃守おはる乃沢青寺を紙心
別夫人の法新もあり仏母摩耶山忉利天上寺とや此
此西ゝ赤松園心城乃西あを
○うぬゝ乃浦道より南海をつき乃濱より二町程東
乃濱まてに三丈四浦八東に法華寺家祇國乃薬師を
ゆゝ南國載こ て後撰拾遺 新後拾遺集 こ
定家
しのゝめの明ぬとゝのゝ
乃ぬゝ乃ゝまてゝ
○法新道より南乃濱四つゝ左西より崔乃松原同西
まあを 続古今集雜下
藤原基俊
よふけぬとゝのゝ
こゝけ乃松よ
○芦屋里道より小東左西まあ
いかり火乃むしの
摂政太政大臣

行平乃住とゝふ所なるべし

○猿尾たゝ丈尾屋村乃人のよし別屋敷とも伝有と

○鶴乃うつの水流すゝ尾屋浦乃よし

○西宮恵比須道より小幾地乃内乃数ヶ所町乃辺り

東ゝて沖乃あゝ島ゝとゝいとより南浜辺乃社を

○津前乃沖西宮乃海上乃ゝ島ゝ

左悪石新実

万葉集雑上

ゝるくゝと津前乃沖を乃ぞ出せる

ゝ乃ゝまゝ乃ゝまゝ乃ゝまゝ

○角松原西宮町ゝ通より二町程ゝあり万葉集

あまをとめいはゝくゝ大のみゝくゝて

かゝ乃ゝまゝゝゝみゝゝゝゝる

○小松清道より南浜をゝまゝ小松林いゝゝより小ゝあり

守覚

ゝ乃ゝまゝゝ浦風ゝゝ塩ゝゝく

小ゝゝゝ清ゝゝゝゝゝゝゝなゝを

○鳴尾ゝより南浜をゝまゝ秋拾ゝ集秋ゝ

西行

常ゝゝゝ秋ゝゝゝを乃松かゝを

ゝゝゝゝ方に心抱ゝて有ゝ

○武庫山此中段ゝある宮甲山とゝい神功皇后東数

退治乃時此山ゝ甲宮ゝ津納ゝ有ゝ氏ゝ伝ゝ

玉葉集雜二

むこの里の海辺にいたりぬる

あまれはゆりてもちらすまよりこゆ

○難波の梅の道より小さ一村の里人とれる古今集

なにはがたみちもやはかすみそめ

いまはかくとも春をこそまち

○堀江橋尼崎町より小ふねあり後拾遺集 定家

なにはえやちるをはほりえはるの

春のひかりにほふなりけり

○大物の浦尼崎の浜より大物橋町中あり并

義経西國下向の時法眼静眼亦秦武文

西島の守系図の時分今ふるの乃屋敷と申伝へ

○秦武文尼崎因の子洲海中あるよし申伝へ

以上

○阿蘭陀人玉乃浦

晴之分

一日出ル時如何ニモ晴ヤカニ雲ナシ

一日出ル時日廻リニ輪アリ其輪ニムラナシ自然ニ消ル

一日出ル時雲日ニ向東ニ往来スルナリ

一日出ニ有雲其雲有輪白ケレハ亦消ルナリ

一日出ニ虹タツ

一東ニ虹タツ

一朝日晴レハ三日マテ天気ヨケレハ十二三日マテツヽクナリ

一十五日天気ヨケレハ是モ二三日マテツヽクナリ

一三ケ月先トカル

一月光白ケレハ天気吉

一四日ノ月先トカル如何ニモ光レハ其月中天気吉

風雨之分

一日出時日色常ヨリ赤キハ風黒キハ雨青白キハ風雨ヽ

一日出時東方ニ黒雲有之時ハ長雨ナリ

一日出前日足サスレハ雨亦風ナリ

一西方虹立ハ雪ナリ

一三日マテ月ナキハ其月雨風ナリ

一日出時青色ニ色ナキハ大風ナリ

一日出時輪有テ其輪ノ消ルカタヨリ風吹ナリ

一日出時光テ雲ナキハ風ナリ

一日出ニ輪アル時ハ大風ナリ

一朝西ノ方ニ紫雲立ハ天気吉

一天気能ニ虹立ハ大風ナリ

以上

○貞享元甲子年之暦ニ

貞観以降用宣明暦既及數百年推歩失天差方今停舊暦頒新暦於天下因改正而刊行焉

○桓武天皇之時儒書漢音仏書呉音定吉備大臣
栗田真人入唐傳唐音呼前代名曰漢音宋時和
僧入宋傳宋音呼前代名曰唐音呉音夷辺之音
也入倭朝初到對馬故曰對馬音是呉音也

○尾陽之久昌合笑万年三寺之主同帯國命扣野
衲于此山房見縦吏應万松名藍之請不但再三
恭惟尾陽本朝當代之至親至貴而其為法選人
如此縦有折簡下其重如鼎況於三寺之遠渉乎
不独野衲不勝感戴凡在法門之輩誰不仰大護
法之德輝然野衲望匪其人且置不論老病衰朽
百不得起謝未意之辱自懼自愧謾吐偈一篇令
人代書以呈三寺之主少酬途路之労兼写區区
之誠也

老病龍鐘餘一死　閑名未謝又労人
願將所見達高聴　報道塚中埋半身

卐山野衲和南

○播磨明石浦枌本大夫祠堂碑銘

弘文学士院林学士撰

夫倭歌者権輿於神代流播於人代而為本朝之
風雅不限貴賤不隔今古無不詠訪無不唱和蓋
其志之所之感物形於言者也故曰動天地感鬼

神化人倫和夫婦莫近於倭歌倭歌之家風躰不一流泒惟多然獨步千歳為此道之宗師者柳本大夫麻呂也人麻呂之先出自孝照天皇之皇子天足彦國世〻綿〻歴事敏達天皇門辺有柳樹故以柳本為氏人麻呂事持統文武両朝以倭歌最善鳴或過滋賀旧都感春草之茂或侍雷岳御遊頌皇威之尊或陪吉野之仙駕指山櫻為白雲或從紀州行幸結小松期後栄其所交遊長皇子高市新田部弓削舍人忍阪部諸皇子泊瀬部皇女及丹比真人等也皆是當時貴顕也或奉悼草壁太子悲其不嗣天位或哭高市皇子詳述壬申之軍功吊明日香皇女念其名不忘爲惜吉備津采女有朝露夕霧之嘆凡天象動植見孟席者無不比興所謂長歌短歌雜歌旋頭譬喩問答相聞等諸躰兼備無遺其所經歴播磨讃岐筑紫國所到所在述羈旅之懐就中明石浦朝霧扁舟之歌者詞林之絶唱膾炙人口者也其晩年在石見國將没自悼作歌其妻依羅娘子和文而悲蓋夫當文武之末年乎或曰存而在聖武朝者傳説之誤乎或曰人麻呂列朝籍爵至三品或曰終於六位未知孰是闕疑而可也按國史天平勝宝年中有遣唐使從五位上陸奥介玉手人麻呂及山城史

生上道人麻呂者後世人麻呂入唐者誤矣不弁
其異姓奈良朝廷撰万葉集時載人麻呂之歌可
四百首紀氏撰古今集多採其歌推尊之以称先
師其後歴朝勅撰倭歌集中無不其歌若夫家集
則後人所編非無疑焉曾聞藤原兼房好倭歌夢
遇人麻呂着烏帽子直衣紅袴左手持紙右手握
筆立梅花下年可六十餘既覚使畫工図其肖像
以珍藏焉臨終献白河上皇納於鳥羽宝庫修理
大夫顕季者歌林之秀也奏請講之使畫師信茂
摸之文永九年之夏擇日設人麻呂供令大学頭
藤原敦光作讃敦光儒家者流以文字名當世者
也其讃曰倭歌之仙受性於天其才卓尒厥鉾森
然三十一字詞花露鮮四百餘歳未兼風傳斯道
宗匠我朝前賢混而不緇鑽之弥堅鳳毛少羣麟
角猶專既謂独步誰敢比肩使當時能書源顕仲
筆之源俊頼以下賓客多會頌讃之俊頼顕季吟
明石之浦之朝霧之歌而罷酒宴至今図人麻呂
影者傚之云及藤原戸部定家撰小倉山荘百人
一首初載二帝其次人麻呂歴代長和歌者皆列
其末加旃六〻歌仙人麻呂為之冠則誠是前無
歟後無歟而於敦島之道無双者也傳称人麻呂
墓在石見高角山或曰移其屍於和歌想夫彼不

忘故土表丘首之乎其墓在添郡初瀬石上之辺
建堂号栃本寺藤原清輔過和及尋旧跡則其寺
既亡唯存其礎傍観小墳可四尺乃是人麻呂墓
也清輔慮後難知刻銘書曰栃本朝臣人麻呂墓
詠歌而去其後鴨長明行而問之無知者以俗呼
其地号歌塚故問歌墳何在而後始得知之今文
献不定則何以決其墳墓之真贋哉播及明石浦
有人麻呂祠堂〻有木像今世俗之所盛不異未
知何世何人之所建祠旧在城内近世移於郭外
者有社氏有寺僧祭祠不絶未詣者亦多有時奏
神樂於城内旧蹤云日州太守源君信之襲顕考
城州牧忠國之封而治明石城既有年矣今茲孟
冬在東武一日招余曰人麻呂者歌林之翹楚也
其祠宰在領地欲立碑以傳不朽願子撰其詞余
聞之奇之曰歌林有人麻呂猶詩家有少陵所尊
猶拜之則学倭歌者尋彼墳墓不亦宜乎少陵卒
於永陽或曰卒於岳陽其墓在衡州然猶在疑之
者宋呂亟相鎮成都追懐少陵作尊堂於少陵曾
遊之旧址繪其像於其上議者曰少陵雖去此然
其意在於是由是観之則人麻呂之墳墓雖在石
州和州其遊魂何不遊於此哉前脩有言曰讀少
陵詩則可以知其世故謂之詩史今披万葉集読

人麻呂歌則亦可以知其世乎謂之歌史亦可也
人麻呂卒年雖未詳然考之於少陵之生年則其
間先後不遠然則天下文明之气運和濃合符詩
歌同帰而達人降生者不亦奇乎嗚呼明石浦者
海西之絶景也浦上之朝霧嶋陰之扁舟亦猶古
詠倭歌於此者不為不多皆是無不仰人麻呂之
餘風人麻呂一去千歳不得而見之矣得見明石
之浦者則可矣況夫祠堂猶存遺像儼然乎今刻
碑石以記其事跡則祠堂雖舊如新修之人麻呂
雖没猶生日乎敦光所謂六義之秀逸万代之美
談者於是可覩焉太守之勇為之志可謂盛挙也
脩廢継絶古之善政也太守之事業百廢俱興可
以待焉詞成系之以銘〻曰

枳本之種　倭歌之家　千歳模範　六義英華
山川草木　雪月雲霞　物而託感　覃思無邪
聯枝以茂　鋪玉無瑕　敷島道通　詞源水賒
涌然而出　浩乎無涯　鳳鳴高岡　馬生渥洼
絶類而優　有誰而加　赤石浦曙　白霧舟遮
廣祠認跡　冠蓋成御

寛文四甲辰孟冬

明石城主松平日向守源信之立

宮内省
京都図書寮
宮内省
図書寮
内閣
文庫

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan